

# 糸島市外部評価 事業概要説明書

## 【糸島市長期総合計画の位置づけ】

基本目標	7 地域資源を生かした産業創出のまちづくり	政策	(1) 農林水産業の振興
------	-----------------------	----	--------------

## 【事業の内容について】

事業名	水産振興補助金事業	担当部・課	農林水産部	水産振興課
根拠法令等	糸島市水産業振興対策事業補助金交付規程	実施主体	糸島漁業協同組合	
開始年度	平成22年度～	実施方法	補助	
事業目的	漁獲量の減少により、漁家経営は厳しい状況にある。 安定した生産と漁獲の増大を図るため、種苗放流事業を実施し、併せて資源管理や密漁防止対策を講じ、つくり育てる漁業の振興と漁家所得の向上を図ることを目的とする。			
事業内容	[水産資源養殖事業]ハマグリ資源管理、稚エビ・ガサミ・ヒラメ・フグの中間育成及び放流。 [アワビ・ウニ放流事業]クロアワビ・赤ウニの種苗放流。 [密漁監視施設管理運営事業]海上巡視船(みょうけん)の運航により、多発する密漁者に対する威嚇と牽制。			
事業効果	近年、温暖化によって有害生物(ガンガゼ)の異常繁殖により藻場の減少となる「磯枯れ」で漁獲物が減少している。このため、糸島海士部会ではこれらを定期的に駆除し、藻場の再生を図り漁獲物アワビ、ウニの放流を実施している。一方で、後を絶たない悪質な密漁者に威嚇と牽制をするため監視船により糸島海岸一帯の夜間海上巡視を行っている。 また、エビ、ガサミ、ヒラメ等の漁獲量も減少している状況であるが、これらを漁獲するエビ漕ぎ網、建網漁業者の高齢化も進んでおり、近場での操業が必要となっている。これに対応するためにも、唐津湾、加布里湾、引津湾にこれらを放流し、資源維持と回復を図り、安定した生産と漁獲の増大を図っている。 また、糸島漁業のブランド商品として「伊都の花えび」(ヨシエビ)や「海士の極み」(塩水ウニ)を漁獲時期限定で出荷し価格向上を図っている。 今後、放流尾数の増大を行い、事業効果の増大を図り、持続的な漁業活動ができる環境を拡大する。			

## 【事業費について】

(単位：千円、人)

	国庫支出金	地方債	その他	一般財源	計(事業費)	従事職員数	概算人件費	合計(総コスト)
平成23年度(決算)				2,000	2,000	0.010	85	2,085
平成24年度(決算)				2,000	2,000	0.010	85	2,085
平成25年度(当初予算)				2,000	2,000	0.010	85	2,085

※概算人件費は、市の平均人件費約8,500千円に、その事業に係る年間の職員数を乗じて算出。

事業費の内訳(平成25年度)	内容	金額(千円)
	水産資源養殖事業	2,300
	アワビ・ウニ放流事業	8,200
	密漁監視施設管理運営事業	1,500
	計	12,000

# 糸島市外部評価 事業概要説明書

## 【担当課による評価・分析】

成果指標名	単位	平成23年度(実績)	平成24年度(実績)	平成25年度(目標)
エビ・アワビ・ウニの陸揚金額	千円	31,137(22)	30,907(23)	58,481

平成24年度 の実績	<p>[水産資源養殖事業]ハマグリ資源管理、中間育成により車エビ70万尾・ヨシエビ25万尾・ガサミ25万尾の放流及びヒラメ5千尾・トラフグ4千尾の放流。                      [アワビ・ウニ放流事業]クロアワビ8.5万個・赤ウニ5万個の放流。                      [密漁監視施設管理運営事業]陸上監視と連携し述べ100日間監視運航。</p>
現状の課題	<p>放流事業は生産効果が期待できるまで数年を要する遅効性のため、継続的且つ放流増を進めなければならない。しかし、先行投資を行う額、量ともに限界がある。また、温暖化による漁場環境の悪化も懸念される。</p>
今後の方針	<p>漁村地域の活性化と地域経済を高めるため今後も継続して放流事業を実施する。更に漁場環境整備を図り、安定した生産を確保する。このことは、漁業後継者の育成及び漁業高齢者対策に繋がることになる。</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放流事業は遅効性であり、即生産に繋がらないため、長期的な計画と漁場管理が必要である。</li> <li>・糸島市海士部員113名の内20歳代22名と後継者は多い。</li> <li>・福岡市ではイカナゴ(カナギ)放流補助金500万円、宗像市ではアワビ放流補助金210万円等の取り組みがなされている。</li> </ul>